

第2号様式（第3関係）

第4回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会議事録

1 開催日時

令和6年2月27日（火） 午前10時～午前11時15分

2 開催場所

豊山町役場 3階 会議室3・4

3 出席者

（1）豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員

委員	中部大学国際関係学部	教授	羽後 静子
	豊山町ケアマネ会	会長	中西 ひとみ
	障害者相談支援センター杜の風	所長	安ノ井 宏隆
	豊山町民生委員・児童委員協議会		小出 真由美
	豊山町シルバー人材センター	会長	水野 典昌
	豊山町ボランティア連絡協議会	会長	齋藤 由紀子
	豊山町保護司協議会		岡島 政信
	小塚歯科医院	院長	小塚 文雄
	志水小学校	校長	近藤 良江
	清須保健所	所長	栗木 雅洋
	尾張福祉相談センター	次長兼地域福祉課長	吉田 稔
	公募		大野 安彦

（2）町

生活福祉部長	井上 武
生活福祉部福祉課長	四浦 かおり
生活福祉部福祉課福祉グループ長	佐々 聖尚
生活福祉部福祉課福祉グループ福祉専門員	長友 妙子

（3）町社会福祉協議会

福祉活動専門員	田上 美佐
総務管理係主事	坪井 大志朗

(4) オブザーバー

有限会社クイット

宮澤 史明

4 欠席者

委員	豊山町社会福祉協議会	会長	池山 和徳
	豊山町福祉作業所保護者会		伊礼 京子
	豊山町老人クラブ連合会	会長	井上 輝海
	とよやま内科クリニック	副院長	金森 典代

5 議題

- ①パブリックコメントの結果について
- ②第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）の答申について

6 会議資料

次第

資料No.1 パブリックコメント結果シート

資料No.2 第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）

第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案） 第3回策定委員会からの主な変更箇所対照表

7 議事内容

【事務局】 ただ今より、第4回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を開会いたします。委員の皆様には日頃から本町の福祉行政にご尽力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。本日は、社会福祉協議会の池山委員、福祉作業所保護者会の伊礼委員、老人クラブ連合会の井上委員、とよやま内科クリニックの金森委員から欠席のご連絡をいただいておりますのでご報告させていただきます。

また、本日の委員会の会議録につきましては、発言者の氏名を除いて公開をさせていただきますので、よろしく願いいたします。それでは、はじめに町長よりご挨拶をお願いいたします。

(町長あいさつ)

【事務局】 ありがとうございます。町長は、公務がありますので、これで退席させていただきます。次に羽後委員長より、ご挨拶をいただきたいと思います。委員

長よろしくお願いいたします。

【委員長】 本日もお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年度4回目の策定委員会ということで、最後の策定委員会となります。次第にもありますように、パブリックコメントの結果についてと、第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）の答申について、事務局より説明があります。前回の内容の確認作業になるかと思いますが、委員の皆様からのご意見、ご質問をいただきまして、審議を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。ここで本日の策定委員会に提出してあります資料のご確認をいたします。配布資料といたしまして、次第、資料No.1パブリックコメント結果シート、資料No.2第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）、第3回策定委員会からの主な変更箇所対照表の以上、4点でございます。資料の不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それではここからの議事進行につきましては、委員長にお願いいたします。

【委員長】 それでは、ただいまから進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、議題の1「パブリックコメントの結果について」、事務局から説明をしていただきます。よろしくお願いいたします。

【議題】

①パブリックコメントの結果について

【事務局】 事務局より、「パブリックコメントの結果について」の説明

【委員長】 説明が終わりました。委員の皆さんからのご意見・ご質問がありましたら、いただきたいと思います。いかがでしょうか。

では質問もないようですので、続いて議題2「第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）の答申について」、事務局より説明をお願いします。

【議題】

②第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）の答申について

【事務局】 議題2「第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画（案）の答申について」と第3回策定委員会からの変更箇所について説明

【委員長】 はい、ありがとうございます。答申案や変更点について、委員の皆さんからのご意見・ご質問がありましたら、いただきたいと思います。ぜひコメント、

質問をいただけたらと思います。

【委員】 前回の策定委員会の時に社協の事務局長から社会福祉協議会会長からの伝言という形で提案がございました。私も全く同感でした。特に人づくりの面で町民への啓発だけではなくて、社協スタッフの育成をどうやっていくか。それを考えてほしいというようなことをおっしゃっていましたよね。全く同感で、それが今回の特に社協の活動計画に非常に反映されていると思ひまして、全くいいことだとか、本当に画期的なものだと思います。私の意見として述べさせていただきますけれども、世代や属性を問わない包括的な相談をどうしていくのかというのは、社会福祉の分野でも相当ずっと議論がされていますけれども、まだまだ確立してなくて、国の方でも決まった体制ができていない。それを率先して行政ではない社協という身軽な立場で、先進的にそういう隙間を埋めていくという事業として、とても画期的なことだと思いますので、先ほどの事務局の方からのご説明の中でも、もっと強調して宣伝されてもよかったのではないかと感じております。ただ、そういう意味でもこの計画案全体には賛成させていただきたいと思ひておりますが、具体的にどうやってこの相談体制をつくっていくのかというときに、その社協のプロ人材の育成というのは簡単ですけれども、なかなか前途は長いといひますか。特に私、知る限りでは、これまで相談事業や成年後見事業を担われてきた方が休職されているというようなことを伺ひていまして、実は、その分野の担当の方、ここ10年もない数年間に2回変わられていますよね。今の方は3人目で、特に誤解のないように個人をどうこうということは申し上げるつもりはないですけれども、そういう有能な方がそうやって変わっていつてしまわれるのは大変残念なので、何か組織的に問題があるのであれば、やっぱりそこは検討して改革されていくということが必要だろうと思ひます。これは私の個人的な意見ですが、その辺を適切にやりながら、何とか町社協が、こういう相談事業を本当に総合的にやっけていけるような、そういうソーシャルワーカーが何人も育っていくような、組織として機能されていっけていただきたいと思ひます。これは住民としての切なる願ひですけれども、その辺をご意見として申し上げたいと思ひております。以上です。

【委員長】 はい、ありがとうございます。そう言っけていただくと大変心強いので、ぜひ引き続き、いろいろ若い人たちにも協力・指導をいただけたらと思ひます。おっしゃるとおり、そういう中心的にやっけてらっしゃる方の交代というのは痛いですよね。それが組織的な問題なのか、個人に事情があるのか。それぞれでしようけれども、その辺をどうバックアップできるか。今後の課題になると思ひますので、事務局からご回答いただきますよう願ひいたします。

【事務局】 ご意見ありがとうございました。着座ですみませんけどもよろしくお願いたします。成年後見の担当が、名古屋市の方から嘱託として来ていただいた方で、もともと成年後見の立ち上げを主にお願ひし、立ち上げ後、運営の方も少し携わっていただいています。名古屋市を経験されて、こちらの方に来られたということです。正確には覚えてはおりませんが、70歳ぐらいの方でありまして、週に2回ほど来ていただいているような状況であります。その引き継ぎの社協職員が体調を崩しておりまして、3月から復帰ということで話を聞いております。日常生活とか、そういった部分で非常勤の職員を採用していくという補強もしながら、総合支援センターの運営をしていきたいというように思っております。町の社会福祉協議会の正職が、まだ30代でありますので、これから勉強しながら進めていきたいというように思っております。社会福祉士の登用も視野に入れながら、今後は考えていきたいと思っておりますので、少しずつではありますが、相談業務の拡充も社協としても考えています。これはうちの会長の意見も含めて、そういう相談業務の充実をしてくれということをお願いしておりますので、今後も充実に向けて調整をしていきたいというように思っておりますので、皆さんもよろしくお願ひをしたいと思います。

【委員長】 はい、ありがとうございました。それでは、他の委員の方いかがでしょうか。

【委員】 写真を入れていただいたので、具体的な内容がよく分かるようになったということはすぐ思いましたけれども、見せていただいた中の写真で42ページに掲載している写真を見ていただきたいのですけれども、親子通園施設での療育支援事業を継続しますというような掲載です。実際に写真が載っていますけれども、今までですね、外壁の改修をされているとお伺いしているので、なかなか撮影しにくいのかなというのは分かりますけれども、もしよろしければ、もう少し賑やかな写真というか、私も出入りしておりますので、何か差し替えができたかなというように思います。はい、すみません以上です。

【委員長】 ありがとうございます。じゃあ、この写真については、できれば賑やかな写真に持っていくことで、事務局でご検討をお願いします。

【委員】 せっかく用語集を作ってくださいましたので、この用語集のレ点なり、アスタリスクなりを付けていただいた方が分かりやすいかなと思います。今のままですと探すのに大変ですので、文章の中にもマーカーみたいなものが、ちょっと細かいですけど、お願ひしたいと思います。

【委員長】 それはとてもいいご提案ですね。私もこの用語集を見て感心していました。これをうまく活用するために本文の中で「注」とか、ここは用語集見てねとか、そういうのがあるとさらに丁寧になります。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】 来年度、高齢者の一人暮らしを確認しましょうとか、そういう事業をやろうということになっていきますけど、災害が起きた時に一人では何ができるかということになりますと実際には何もできない。社協さんがボランティアの講座を多く計画してみえると思いますけど、アンケートの中にやりたくないという方もやっぱりいますよね。災害時の助け合いは必要なことですので、やりたくないという方を拾い集めるような計画を社協さんの方でお願いしたいなと思います。

【委員長】 そうですね。おっしゃる通りです。どこの市町村も一番悩んでいると思います。皆さんが日頃からそういう講座に参加して、災害のための準備をどう行おうかが大事になってきます。

【委員】 これからだインターネットでとか、そういうものもあると思いますので、ぜひとも私たちだけが、ここに高齢者がいますよと言っても、何かあった時に走っていくわけにはいきませんので、近所の方、そういうボランティアの方がすぐ動けるように知識だけでもいいので、持っているといいのではないかなと思います。

【事務局】 災害時の見守りだとか、そういった部分については75ページを見ていただきますと、避難マップ作りということで、ご近所の方を含めて社協が今、施設を利用して見える方、例えばデイサービスだとかヘルパーステーションだとか、あと、ふれあい食事会とかをどのようにしていきたいかというのを少しずつではありますけども、民生委員さんに全てお願いをすることではなくて、ご近所の方、いろんな方がお見えだと思いますので、そういったものを一つ一つ作っていききたいなというように思っています。いろんな講習会についても、力を入れたいということは、担当とも話をしていますので、そういった中で、協力をしていただけるような方を少しずつでも作っていききたいというように思っていますので、よろしく申し上げます。以上です。

【委員長】 はい、ありがとうございます。貴重な意見です。一つ、私高蔵寺ニュータウンに住んでいますが、そこでもやはりその問題が多くて、お一人様の会というものを作っている女性たちがいて、女性の方はいいですよね、割りとお出歩くので。災害が起きた時に協力したり、助け合ったりとかはすぐには関係が作れませんよね。日常的な地域でどうやって、高齢者の一人の男性を地域に溶け込ませてもらおうかとか。そこがどこでも大きな狙いになると思うので、ぜひ、またいろいろ知恵をお借りしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。他にいかがでしょうか。

【委員】 今のお話の関連ですけど、社協で独自にその要支援者名簿を作ろうというその意気込みとか、その方向性というのは、大変結構なことですけども、そ

こは独自にだけでは包括しきれないと思いますので、民生委員とか、あと例えば消防団とか、町内会とか、その辺のところとの連携ですね。それこそ、それがアウトリーチだと思います。ソーシャルワーカーさんのアウトリーチをそういうところで発揮させて、そういう意味では社協の要支援者名簿には全て網羅されているというようなどころまで作っていただけると大変心強いというか、社協のソーシャルワーカーさんがいざという時に動くというのはそれも理想だと思います。そういう理想にどう近づくかというところを、ぜひご検討いただきたいと考えております。

【委員長】 そうですね。そういうのができるといいですね。その名簿が先なのか、何か活動で出てきてもらって、やっぱり名簿が必要だよなと思っていただくか。高齢者になると、だんだん難しくなるところもあるようですね。そこで今、おっしゃったようなリストができると災害時に活きますよね。はい、他はいかがでしょうか。

【委員】 今まで皆さんから出た内容等も含めて、これをやっていこうとすると、社会福祉協議会や福祉課の方も、大変だというように私は推測しています。前と比べてだいぶいろんなことが状況に応じて刷新されてやっていくにあたり、本当に自分たちが手伝える範囲はやらないといけないという思いは出てきました。そういうように皆さんに何か思っただけのような、そういうようなことがやっぱり必要なと思います。先ほど言われたような男性の高齢者のお話も、前に一度、お話をさせていただきましたけど、本当に出てもらうのに厳しくてしょうがない。誰か引率というか、リーダー的な高齢者がいれば出てきてくれますけど、少し引き込みだすと、若い人が言っても出ていただけないというのが実情なので、今、私も困っている状況です。そういうことも含めてお互いにということで、今回、先ほど事務局からお話があったように、ここの互助というのが抜けているのではないかというお話もあり、やっぱり、お互いにというのは必要じゃないのかなと私は思います。

【委員長】 委員には益々頑張ってくださいということになります。男性は何かリーダーの方が居たら出やすいということがありますよね。長年のサラリーマンだとか、役所勤めの行動様式がありますよね。おっしゃるように男性の場合で、一人で出にくい人達というのは、何か自分がリーダーと思える人がいた方が出やすいというのはあると思います。

【委員】 なるほど、なぜそれを言えるかという、今ここにみえる校長先生が、歴史の関係で以前お話しいただいたことがあります。私達男性だけの集まりで、一番指揮的な人がまとめて、児童の前で戦争の体験談を発表したと、そんなようなことで外に出られるような環境づくりが必要だと思います。

【委員長】 それは本当にそうだと思いますので、恐らくサラリーマン勤めが長い方とか、そういう学校の先生とか、そういうリーダーの方々の下で、社協さんが頭に入れて、人によっては個性がありますよね。それと、前回委員がおっしゃったみたいに、学童保育の子どもたちとの交流ができないかと。自分の孫でなくても、孫世代であれば少し心が和むというか、そういうご提案もあったかと思えますけど、それで子どもとおじいちゃんやおばあちゃんとの講座はどうかと。そこにこの町ならではのドローンとか飛行機とか、そういった講座をやったらいいのではないかという意見があったと思います。町民の方々のイニシアチブがないと、なかなか行政だけでは難しい。それぞれ引き続きよろしく願いいたしますということになりますけど、他にいかがでしょうか。

【委員】 計画の32、33ページの基本目標で3つのキーワードが出てくると思えます。例えば、「福祉の心をはぐくみ、地域を支える担い手の推進」という言葉になっていますけど、元々というのは30ページだと文章になっていますので、そこと合わせた方が良いのではと思います。

【委員長】 事務局から今のご意見について、了解していただけますか。

【事務局】 今いただきましたお話ですと30ページの方は「・・・推進します」だとか動詞形で終わっていますけれども、32ページから35ページまでの基本目標は名詞形で終わっている。そこは揃えた方がいいのではというご意見ですね。一度、検討させていただきまして、対応させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

【委員長】 はい、ありがとうございます。

【委員】 どこの施策も重要な取り組みというのがしっかり書かれています。重要な取り組みをどのように進められるのかなと、すごく難しいところだなと思っていて、自分の地域というか、志水小学校区でも子ども会は厳しい状況ですし、自治会もお年寄りがどんどん抜けられている。役員ができないからということで、どんどん世帯数が減ってしまっているというのもお聞きしますし、民生委員さんも地区によっては空白のままになっているという中で、自分の取り組みでそれを活性化するというようなことが書かれていますけれども、実際、このような世の中の流れで、その部分をどのようにやっていくのかなというところが本当に難しいなというのが感想です。

【委員長】 そうですね、どこでも高齢化が進んでいますのでね。なかなか行政だけでは、できないというところがあると思います。先ほど社協さんに皆さん期待がかかるのか、ぜひ人材育成をしていただいてということになりますけれどもね。何か一言ございますか。

【事務局】 皆さんおっしゃるとおりですね。高齢化は本当に難しいと思いますが、引き

こもりを含めてですね。どのようにしていくかというのが命題だというようには思っています。70ページのところに地域交流事業ということで、社協がまだ少しずつしか活動しておりません。写真を少し見ていただくと、交流事業の真ん中がこれはシルバー人材センターの方と一緒に球根を植えている写真でありますけれども、こういったところから一つずつ交流事業を増やしていきたいというように思っておりますし、児童館・児童センターでは、地域の高齢者の方と交流もしたいというように思っております。いろんなサロンの事業を実施したりしておりますので、下にある賑わい施設の交流のところの福祉カフェの写真ですけども、実際にはこういったところにも子どもさんと一緒に参加してもらってもいいというような形にはなっておりますけれども、高齢の方しか参加していません。これからはお孫さんだとか、そういう方も含めて参加の方をお願いするので、少し周知の手法も幅広く、あと丁寧にしていきたいというように思っていますので、そういった高齢化についての施策もできる限り、いろいろなことをやっていきたいというように思っています。そういったことで、ここはご理解のほどお願いをしたいと思います。

【委員長】 はい、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【事務局】 町の方でも、高齢者を掘り起こす施策を展開していきます。第4章の49ページ、52ページに総合福祉センターのあり方を、昨日町の令和6年度当初予算案の記者発表も行いまして、南館ひまわりの浴室を子どもから高齢者までが集う場としたいというような実施設計予算を盛り込みました。52ページの高齢者と孫世代との交流機会を提供し、にぎわいの拠点としてですけども、総合福祉センターはじめ、まだまだ人生100年時代で高齢者は元気ですよ。高齢者を掘り起こすというのは、この計画案のテーマでもあるものですから、町としましても社協さんと一緒になって関係団体と手を携えてやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】 はい、ありがとうございます。そういえば、今日中日新聞の地域版に出ていましたよね。ぜひ春日井市長も今100年時代というのはいろいろ言っていて、高齢者はお世話されるというのはもう幻想ですと。高齢者も世話する方ですみたいなことを言っていて、本当なのかなという感じはありますけれども、高齢者の捉え方ひとつで、その施策はまた変わってきますのでね。確かに長生きをする長寿の時代にはなってきていますので、高齢者も頑張るといっか、頑張らなくてもいいから楽しむとか。そういう暮らしをどのように提供できるか。あるいは、一緒につくっていくのかということのはどこでも今いろいろ頭を悩ませているところです。

【委員】 89ページの計画の推進体制で、インクルーシブ教育という話も出ました。

それから、災害時の対応もありましたけど、やはり福祉だけで全ての改善というのはなかなか難しいので、教育委員会ですとか、防災部局とも連携して、計画の施策を進めていっていただきたいと思います。

【委員長】 まさにその通りです。今の世代の高齢者をどうとかも大事ですけども、次の世代の高齢者のために、どのような施策を展開していくかが大変重要になってきます。はい、ぜひよろしく願いいたします。よろしいでしょうか。事務局の方々もよろしいでしょうか。言い残したこと、言い足りなかったことはございますか。そうしましたら、これで意見が出尽くしたようですので、事務局に一旦お渡しします。

【事務局】 はい、この後答申について羽後委員長から町長に手渡ししていただきます。また、本日答申いただきました内容に変更箇所を反映したうえで計画書の冊子を印刷していく流れになりますが、3月下旬には委員の皆様にお配りできるよう準備を進めていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。その他としては、以上になります。

【委員長】 これをもちまして、第4回第4次豊山町地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

【事務局】 委員長ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご審議をいただきましてありがとうございました。本日の委員会の報酬につきましては、3月中旬にお支払いする予定です。本日は、ありがとうございました。